



概要「電子ジャーナルの転換契約とAPC 問題で変わるオープンアクセスの現状と 課題」

SPARC Japan セミナーWG主査
林 和弘

文部科学省科学技術・学術政策研究所
データ解析政策研究室長

日本学術会議特任連携会員（オープンサイエンス関連）

日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）組織委員

2023年2月17日(金)

誰もが学術情報へ自由にアクセスできるようにする活動（として始まる）

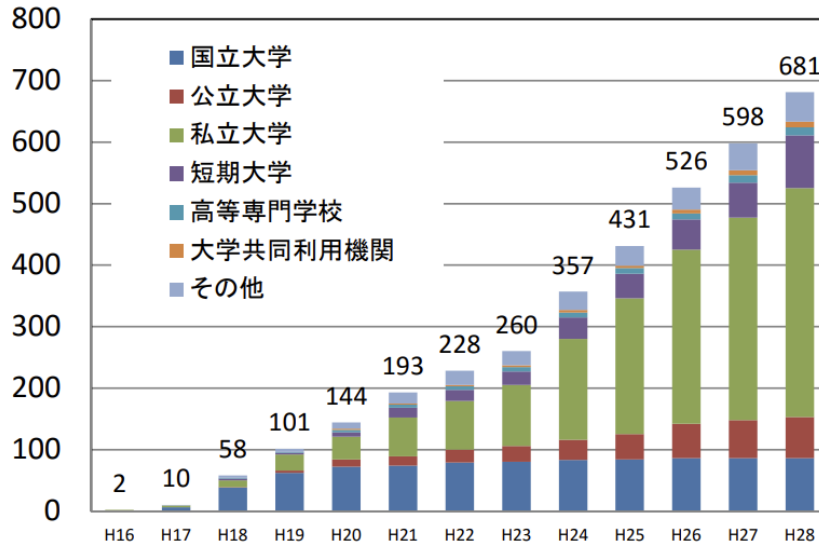
- **[理念]学術情報へのアクセスは本来自由であるべき**
 - ◆ 知の発展とイノベーションの推進
- **[背景]論文の増大、商業出版者による寡占と価格高騰**
 - ◆ 図書館が買い支えられない
- **[発端] ICT（情報通信技術）の進展と出版コストの低減**
 - ◆ サーバーに論文を置けば、印刷費も郵送費もかからない
- **[転換]公的研究資金で得られた研究に対する社会説明責任**
 - ◆ 米NIHによる義務化（2005- 医療情報のPublic Access）
- **[実態]電子ジャーナルを無料で読者に提供する活動が中心**
 - ◆ Green（著者最終版利用）、Gold（ジャーナル自体がOA）、エンバーゴ（一定期間後にOA）
- **[展開]**
 - ◆ 単なるフリーアクセスから、再利用と改変を可能とすることを重視
 - ◆ 論文だけでなく、データを中心とした研究成果に関してもOAの動きが活発に

OAの背景にある考え方が拡張し、科学自身を開放し社会変容を促す動きに（オープンサイエンス）

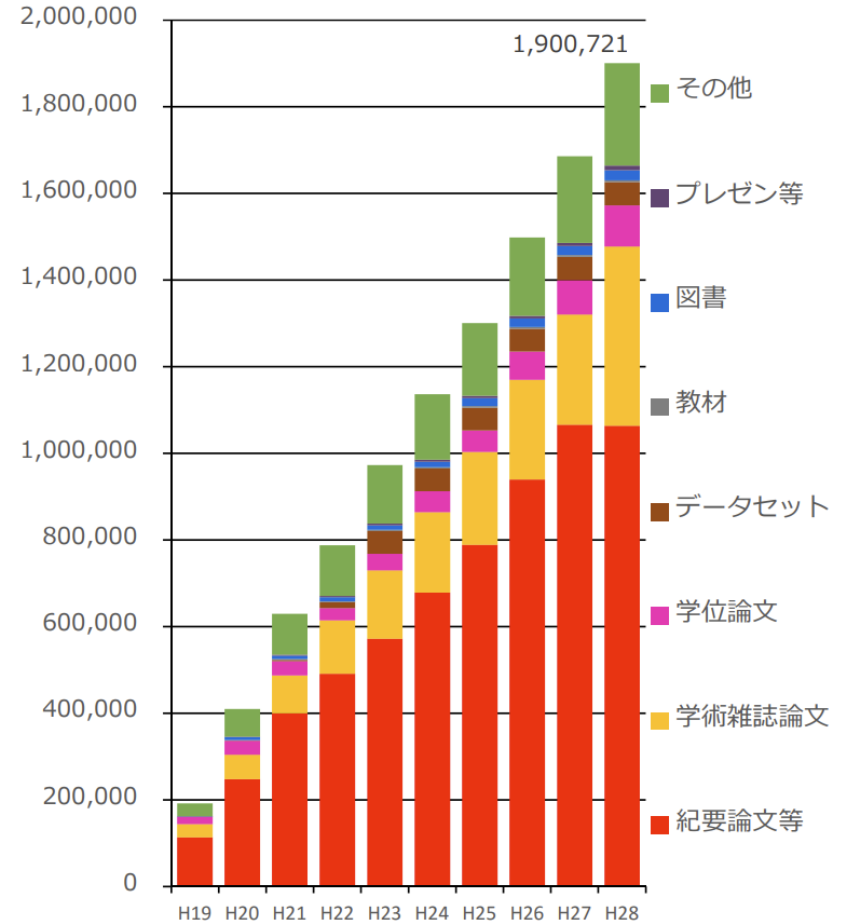
機関リポジトリの現状

資料3
 科学技術・学術審議会学術分科会
 学術情報委員会 (第2回)
 平成29年5月31日 (水)

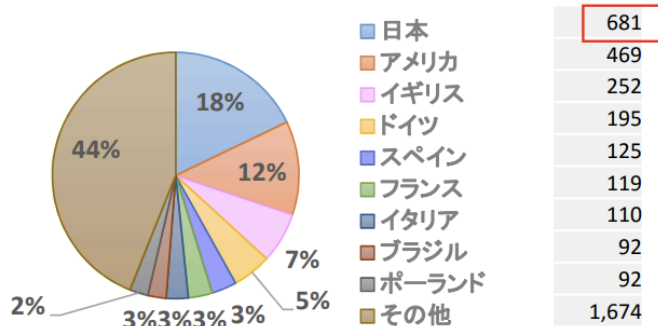
○機関リポジトリ構築機関数の推移



○機関リポジトリ登録データ数の推移 (H29.3末現在) (※ タイトル等の情報だけではなく、論文本文等の情報を有するもの)



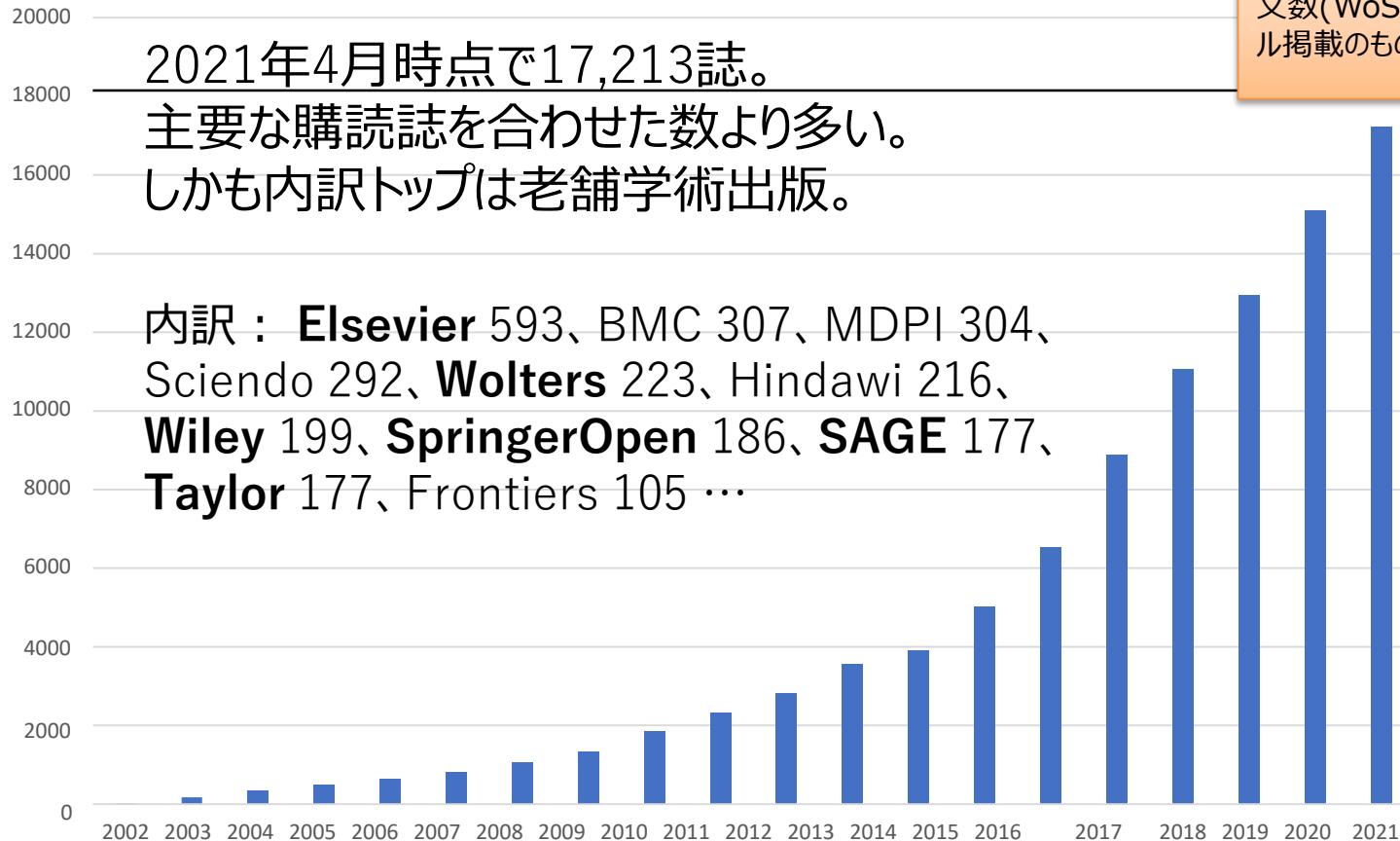
○世界で構築されている機関リポジトリの数: 3,809



ホワイトリスト扱いされる DOAJ (Directory of OA Journals) の登録誌数

(<https://doaj.org/docs/public-data-dump/> 2021年4月29日登録の created_date情報に基づく。登録以前にOA化している学術誌が大半。)

DOAJ-registered Journals



2021年4月時点で17,213誌。

主要な購読誌を合わせた数より多い。

しかも内訳トップは老舗学術出版。

内訳：**Elsevier** 593、**BMC** 307、**MDPI** 304、**Sciendo** 292、**Wolters** 223、**Hindawi** 216、**Wiley** 199、**SpringerOpen** 186、**SAGE** 177、**Taylor** 177、**Frontiers** 105 …

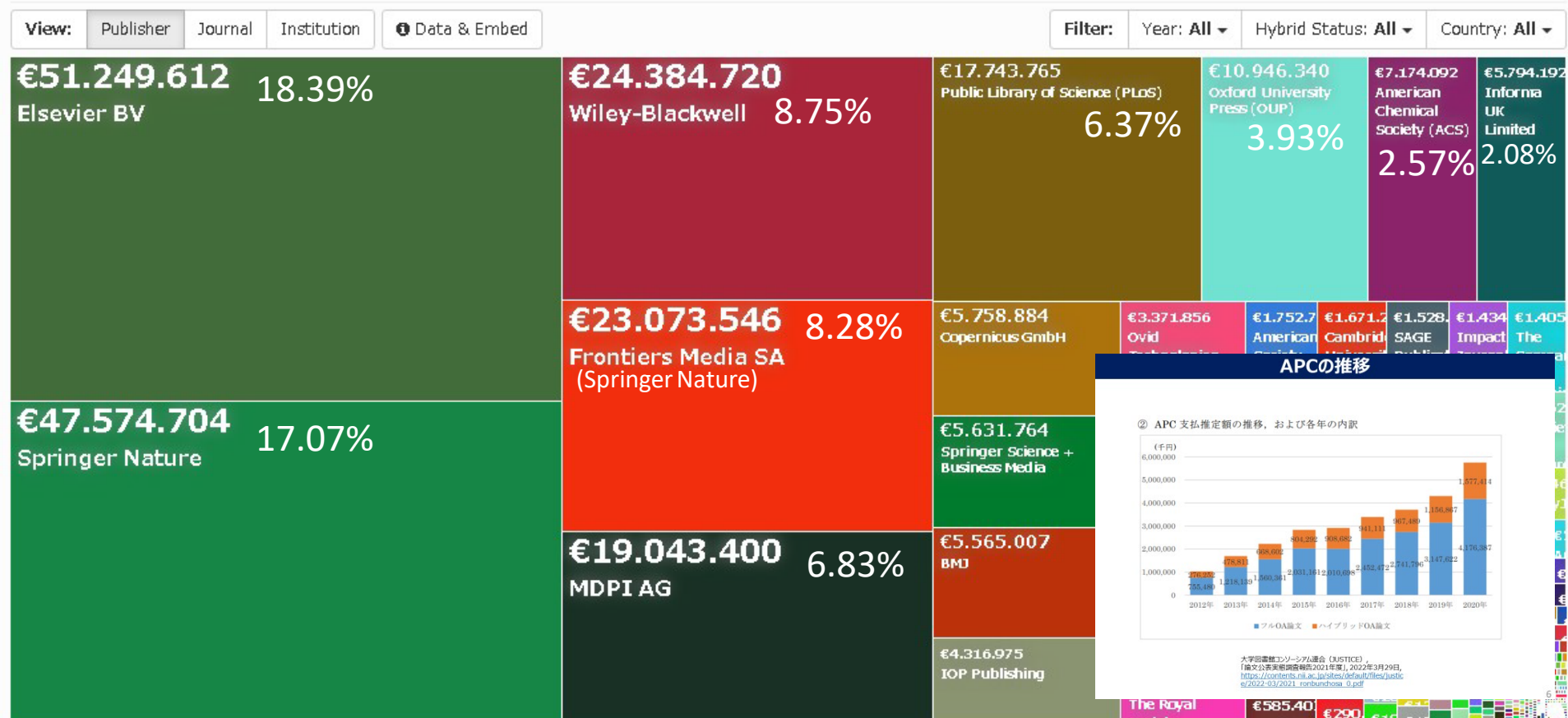
(さらに) 所属機関が日本の論文数(WoS)の上位はOAジャーナル掲載のものが増加

<https://treemaps.intact-project.org/apcdata/openapc/> (02/10/2022)

OPEN@PC

ABOUT OLAP SERVER GITHUB OPENAPC

OPENAPC OA誌で比較しても、支払の半分以上は学術出版大手 3 社が得ている。



- **オープンサイエンスは研究データの活用やシチズンサイエンスの発展など、科学研究の姿を変えるものとして注目を浴びている**
 - ◆ 究極的には、科学自身の姿を変え、社会が変容する
- **一方、研究活動に依然として重要な役割を果たしている論文を中心とした学術情報流通も大きく変化**
 - ◆ オープンアクセスを巡る状況においても、
 - 黎明期で機関リポジトリが日本でも始まった2000年代
 - 商業出版社がGold OAを創刊しだした2010年代
 - これまでとはまた違った様相を示す2020年代（ここを見通す）
- **本セミナーでは、依然変化し続けるオープンアクセスの現状について、その背景を今の文脈で捉えなおす**
 - ◆ APC問題と電子ジャーナルの転換契約を中心に
 - ◆ 学術情報流通の課題の再確認とステークホルダーを超えた解決策を模索する